



中国中世の社会と文化

[キーワード: 中国中世、日中交渉史、史学史]

教授 葭森健介

<研究の概要>

中国の三～七世紀の時代の政治と社会、また東アジア地域の交流を中心として研究しています。私が定義する『中国中世』とは、『三国志』の時代に始まり隋唐に至る時期のことを指します。この時代我々が暮らす東アジアは劇的に変化しました。この時期、日本では邪馬台国が起こり、大和朝廷が日本を統一、聖徳太子が遣隋使を送り日本は中国文化を中国から取り入れ、倭国から統一国家日本となりました。また手本とした当時の中国では欲張って人を傷つけることを濁ったことと考え、欲を押さえて清く生きる人間を貴い人と考えていました。その結実が律令体制でした。日本人は日本を中心に歴史を見ており、ともすると日本自身を見失ってしまっています。国際化時代に必要なことは自分の国だけを考えていても、外国かぶれになってもいけません。日本から外国を、外国から日本を見ることで、世界が広がります。中国中世の政治制度、思想や文化の中身とそれがいかに東アジアに広まっていったかを研究することを通じ、日本の本質、現代日本を見つめ直しています。

(写真:

中国華東師範大学にて)



<主要研究業績>

『東洋の知識人』(朋友書店,1995年),

『中国中世史研究』(京都大学1出版会, 1995年)

『内藤湖南の世界』(河合文化教育研究所,2001年)

「門閥貴族支配及清的理念」、(『文史哲(中国)』1993年)

「共同体論」与“儒教社会主義論”(『江海学刊(中国)』2015年)

等

<地域(行政)、NPOや企業との連携・共同研究実績>

徳島県日中友好協会会長、魏晉南北朝史研究会会長、

国際日本文化研究センター共同研究員、

河合文化教育研究所客員研究員

<地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

グローバル化、東アジア情勢、経営倫理

専門分野 : 東アジア史、交流史

E-mail: yoshimori@tokushima-u.ac.jp

詳細情報 :

ウィキペディア、Google、Yahoo等の日本語、百度他中国語の検索エンジンで葭森健介と入れて検索して下さい。